

報告事項ア

平成25年度第3回鳥取県学力向上戦略本部会議の概要について

平成25年度第3回鳥取県学力向上戦略本部会議を開催しましたので、その概要について報告します。

平成25年10月28日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

# 平成25年度第3回鳥取県学力向上戦略本部会議 概要

日時 平成25年10月11日(金)

午後1時30分から3時30分

会場 鳥取県庁 議会棟 特別会議室

## 1 教育長挨拶

- 全国学力・学習状況調査結果に一喜一憂するのではなく、課題を見つけ、分析し、PDCAサイクルを回すことが重要。内面的な気持ちを高め、学力向上へつなげたい。
- 今回「指標」を決定し、次のステップとして、10月24・25日県内三地区で「学力向上に係る説明会」を開催し、指標についても御理解いただく。

## 2 報告

### 【小中学力部会】

- 「全国学力・学習状況調査」について、全ての教科正答率が全国平均を上回り、正答率の分布は上位層の児童生徒が全国に比べて多く下位層が少ない状況。「教科が好き」「夢や希望がある」については全国平均を下回り、内発的意欲の喚起・取組が引き続き必要である。
- 「少人数を活かす学びと指導の創造事業」では、アンケートが教員の意識改革につながり成果あり。小中の接続を中高の接続につなげたい。
- 今後の取組の方向性について、授業の在り方、連携の方法、図書館教育、キャリア教育、連携のための人の配置など様々な視点で御意見をいただいた。

### 【中中学力部会】

- 学力向上を目的とした取組として、スクラム教育で学ぶ意欲の向上などの成果が報告された。
- 今後の取組の方向性について、中等教育としてのスクラム教育、広範囲での教科連携、小中で育ててきた道徳教育の連携などの意見をいただいた。

## 3 協議

### (1) 指標(修正案)について

- 第2回本部会議後に提案した指標(案)について、
  - ・発達段階を踏まえる・学校や教員、地域の取組の視点・取組指標と結果指標の整理
  - 以上のポイントで修正し、4項目の追加、3項目の削除、3カ所の変更となった。
- 座長より質の評価のアドバイスがあり、質疑応答の後、修正案通りに「指標」が承認された。

### (2) 来年度の学力向上策について

#### 【学校】

- 教員の質の向上に関する取組も必要だ。人材の増加や、使う道具の導入なども検討したい。

#### 【地域】

- 町に勤める教員は、子どもたちの住む町の一般的なことは分かるが一步突っ込んだことは分からない状況。住民の「願い・地域を守る気概」を伝える取組で、観点①の指標に迫りたい。

#### 【家庭】

- 学力向上において保護者の研修は重要。子どもたちが頑張れるような環境をまず家庭でつくる。
- PTA活動で家庭学習を啓発する場合難しさもあるが、何かを変えるためには啓発が続けることが重要である。

#### 【連携】

- 持続する学習意欲を視点に、小中高連携の具体的な取組を考えたい。また、家庭・地域が学校教育にどう関与して連携していくか、教科の系統性の連携なども必要である。
- 相手の立場になって考えられる子どもたちを育てることが重要である。狭い意味での学力向上ではなく、人間力をいかに育てていくか、それを小中高と大きな流れで捉えることが必要である。

#### 【その他】

- 知性に基づく人間性の向上について、他者の立場で考える視点を教科や活動に取り入れた事業や、ふるさとを核とした教育の事業化を検討してはどうか。
- 学力調査をA B C D層に分けて分析する方法は興味深い。同じ児童生徒の変容をみるのが教育の本質であり、小学校6年生が3年後の中学校3年でどう変化したかを見るべき。また、その最良の方法は悉皆調査ではない。適正なサンプリングや業務委託などの工夫が必要だ。

## 4 第4回予定

12月 来年度の学力向上事業とその運用について

平成25年10月11日  
教 育 総 務 課

### 指標の観点

- ①豊かに生きる、共に生きる力 (自立・貢献・自治、夢・憧れ、ふるさと意識など)
- ②学び方の質・学習状況 (意欲、授業に向かう姿勢、家庭学習)
- ③学力調査 (基礎基本、思考力・判断力・表現力)

## 【観点①：豊かに生きる、共に生きる力】

### ◆自分自身や他者、社会等との関わりに関する意識

- 「ボランティア活動に参加している」児童生徒の増加 (小中高)
- 「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」児童生徒の増加 (小中高)

### ◆進路に向けた意識

- 「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の増加 (小中高)
- 「「あの人のようになりたい」と思う人がいる」児童生徒の増加 (小中)
- 「自分の進路を実現するために、目標に向かって努力している」生徒の増加 (高)

### ◆地域社会への参画状況

- 「地域の行事に参加している」児童生徒の増加 (小中高)
- 「地域の大人(学校や塾・習い事の先生を除く)から褒められたことがある」児童生徒の増加 (小中)

## 【観点②：学び方の質・学習状況】

### ◆意欲、授業に向かう姿勢

- 「身に付けた知識・技能や経験を生活の中で活用できないか考える」児童生徒の増加 (小中)
- 「授業の中で『わかった』、学んだことについて『もっと知りたい』と感じる」児童生徒の増加 (小中)
- 「学校の授業は、内容がわかりやすく、勉強することの充実感を感じる」生徒の増加 (高)
- 「調査結果を授業改善に活用している」学校の増加 (小中)
- 「児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりする発問や指導をする」学校の増加 (小中)、教員の増加 (高)

◆ 体験活動・読書活動の実施状況

- 「授業で体験的な学習を取り入れている」学校の増加（小中）
- 「全校一斉読書に取り組む」学校の増加（小中高）
- 「読書が好きである」児童生徒の増加（小中高）

◆ 家庭における学習等の状況

- 「家で、自分で計画を立てて勉強している」児童生徒の増加（小中高）
- 「進んで取り組んでいることをほめている」保護者の増加（小中）
- 「児童生徒に対する国語・算数（数学）の指導として、保護者に対して家庭学習を促すような働きかけを行う」学校の増加（小中）

**【観点③：学力調査】**

- ◆上位層の増加、下位層の減少（小中）
- ◆過去の調査と同一問題の正答率の増加（小中）
- ◆無解答率の減少（特に「活用」に関する問題）（小中）
- ◆各校が設定した指標の達成（高）

（出典）

小学校・中学校：全国学力・学習状況調査等による

高等学校：高等学校教育改革に関するアンケート、各校実施調査等による

高等学校学力向上の取組の指標(詳細版)

学校名	指標項目					
	①不登校生徒数等問題行動発生数	②生徒等への授業アンケート	③家庭学習時間	④入学試験、就職試験、模範試験結果	⑤各種検定試験、資格試験結果	⑥定期考査等のテスト結果
鳥取東		授業満足度90%以上 興味、関心の度合い70%以上	計画的な家庭学習の実施 家庭学習時間の推移を見ながら生徒指導に反映	進研模範得点率全国平均を5%以上上回る		
鳥取西		授業アンケートの活用による生徒の興味関心、学習意欲向上の確認	家庭学習時間の定着(1日60分以上) 自宅学習時間調査により生徒の家庭学習を把握し、個人面談等の学習意欲喚起の取組につなげる	基礎力診断テストにより生徒の意欲、学力向上、到達度を把握 数学基礎演習	定期考査及び校内実力テストの結果に「形成的評価」を導入し、授業改善	部活動等への参加 研修会への参加、公開授業等の実施
鳥取商業		授業アンケート、授業評価により、生徒の興味関心の高まり、学習意欲の向上を確認	家庭学習の定着(1日60分以上) 自宅学習時間調査により生徒の家庭学習を把握し、個人面談等の学習意欲喚起の取組につなげる	基礎力診断テストにより生徒の学力を把握し、進路指導及び教科指導に活用	「国家資格・検定取得カイトブック」を活用し、一人一資格を取得	職員研修、公開授業、県外教員との授業実践交流
鳥取工業	不登校生徒、退学生徒の有無	授業アンケートによる生徒の学習状況や理解度の把握。授業の改善	自宅学習時間調査により「家庭学習がほぼ毎日できている」と回答する生徒の増加	基礎力診断テスト(D3)が60パーセント以下)	各種免許、各種資格の取得状況の推移	各種研修会の参加 教室美化の徹底
鳥取湖陵		生徒アンケート(自宅学習状況の把握)	家庭学習時間調査により「家庭学習がほぼ毎日できている」と回答する生徒の増加	基礎力診断テスト(D3)が60パーセント以下)	「学び合い」を取り入れた授業の実践 実習への満足度 進路決定率100%	「学び合い」を取り入れた授業の実践 実習への満足度 進路決定率100%
鳥取緑風		学力向上を実感する生徒数	自宅学習時間(1日1時間以上)	基礎力診断テスト(D3)が60パーセント以下)	資格取得者数の増加(H24年度延べ26件21名)	授業の単位修得率 進路実現100%
青谷	学力不振による転退学者の減少 特別指導件数の減	学びに対する満足度の向上	自宅学習時間(1日1時間以上)	基礎力診断テスト(D3)が60パーセント以下)		進路実現100%
岩美		1時間以上の家庭学習の習慣化 課題の提出率	1時間以上の家庭学習の習慣化 課題の提出率	基礎力診断テスト		進路実現100%
八頭		自宅学習の学年目標時間達成 課題以外の自主的な学習	自宅学習の学年目標時間達成 課題以外の自主的な学習	小論文を課す大学・学部への受験者数の増加	授業改革の研修会等への参加 研究授業の実施 小論文担当教員の増加、指導回数増加	授業改革の研修会等への参加 研究授業の実施 小論文担当教員の増加、指導回数増加
智頭農林		授業アンケートで「生徒の授業の理解度、分かりやすさ感や興味等」 A:80%以上、B:70%以上~80%未満、C:60%以上~70%未満、D:60%未満	生徒アンケートで「日常的に学習に取り組んでいる」 A:80%以上、B:60~80%、C:40~60%、D:40%未満	ワープロ検定等、教科・科目に関連した資格の全員合格 生徒一人当たり、年間1取得した資格の平均個数で判断(A:2以上、B:1.5~2未満、C:1以上~1.5未満、D:1未満)	学校設定科目「マルチペーシフィック(総合的な基礎学習科目)」の満足度や取り組み意欲を分析 A:80%以上、B:70%以上~80%未満、C:60%以上~70%未満、D:60%未満	生徒の意欲的な学習への取組 研究授業による評価
倉吉東		授業評価アンケートにより以下の点の確認 ①生徒の学びがテストや大学受験といった実利的目的を越え、真実探究といった高次なものとなる。 ②生涯にわたる学びの意義や教科の魅力を理解し、学習が内発的・主体的なものとなる。	S1・S2:2時間以上、S3:3時間以上 生活時間の有効利用で、学習時間の確保 課題提出状況が95%以上	現役合格者数125名以上 中堅大学レベル以上、合格者数70名以上 難関大学合格者、現浪合計20名以上 東京大学合格者5名		指導力向上のための研修への参加 教員の進路指導の充実 アクティブラーニング(能動的学習)の研究推進
倉吉西		生徒及び教員による授業アンケート	S1・S2:2時間以上、S3:3時間以上 生活時間の有効利用で、学習時間の確保 課題提出状況が95%以上	校外模範試験結果における過年度比較 センター試験結果における過年度比較 国公立大学合格者数過年度比較		主体的に授業に取り組む生徒の増
倉吉農業			春・夏・冬の課題の期間内提出 家庭学習0時間の生徒がなくなる	基礎力診断テストD3が50%以下 進学希望者への支援による大学進学率の促進	資格取得の合格率が70% 資格取得に興味関心を持ち受験者が前年比増加	卒業生全員の進路先の決定
倉吉総合産業		生徒授業アンケート	自宅学習時間の増加	基礎力診断テストの縮小(A・B・Cゾーンの増加、Dゾーンの減少)	資格取得を促進する	各教科の授業研究会の開催回数の増加
鳥取中央育英		1日2時間以上の生徒が5割以上	1日2時間以上の生徒が5割以上	国公立大学合格者30名 大学入試センター試験結果で全国平均を上回る生徒数 スタディサポート(Dゾーン)20%未満		授業改革に向けた職員研修の実施
米子東		生徒・職員を対象にアンケート(授業に関する生徒の意見を取り入れ、指導法を改善する)	家庭学習時間の確保(3年間で日3時間、休日4時間)	教科で到達目標や到達度を設定・確認		学習理論等の研修を通じた授業力向上 コミュニケーション能力等の向上
米子西		進路目的が明確になり、学習意欲が高まった生徒の増加(高権力タリハ計画前後アンケート)	生徒アンケートで「学習習慣が身につけている」と感じている生徒の増加	国公立大学合格者100名以上 偏差値50以上の生徒の増加		校内授業研究の開催
米子		生徒の自己評価を2回実施し比較	生徒の自己評価を2回実施し比較			テーマ学習、探究的学習の導入 進路指導の充実 学力の定着(授業時間確保、授業改善)

高等学校学力向上の取組の指標(詳細版)

学校名	指 標 項 目					その他	
	①不登校生徒数等問題行動発生生数	②生徒等への授業アンケート	③家庭学習時間	④入学試験、就職試験、模擬試験結果	⑤各種検定試験、資格試験結果		⑥定期考査等のテスト結果
米子南				・4年生大学等への進学者数増加 ・基礎力診断テストD3ゾーンの減少 ・SPIテスト全生徒成績向上	・専門的資格取得95%以上 ・各種検定試験、資格試験結果 ・専門的な学習に意欲的に取り組む生徒の増加	・朝テスト(一般常識テスト)満点者増加	・全生徒の進路実現 ・成績不振者数の減少
米子工業		・教職員アンケートで「授業・実習で学習意欲向上の工夫を図った」が80%以上 ・生徒アンケートで「学習意欲が高まった」「授業がわかる」が80%以上					・授業改革の推進による基礎学力定着
米子白鳳		・授業アンケートと授業の自己評価により指導法を改善し、「わかる授業」の実施 ・生徒の学習への意識の変化調査と比較					・研修等を活用した授業改善の推進 ・わかりやすい授業の実施
境			・家庭学習1日2時間以上が50%	・全国模試の国語・数学・英語で、偏差値50以上の生徒が50人以上 ・基礎力診断テストで3年次(4月実施)のDD3ライナスを入学次から半減	・実用英語検定受検者の7割が準2級合格 ・介護福祉士国家資格合格100% ・資格取得にチャレンジする生徒増		・生徒が主体的に授業に参加できる工夫 ・就職(学校紹介)内定率100% ・進学希望者の合格率100%
境港総合技術							・校内授業参観、校外研究授業への参加 ・コミュニケーション能力の育成 ・全ての生徒の進路保障
日野		・生徒のアンケートで「授業がわかりやすい」という肯定的な評価が増加 ・保護者アンケートで「日野高校で学んで学力が身に付いている」という回答が増加		・進学希望者向け模試の実施			

(注) 上記指標項目(①~⑥)については、平成24年3月に高等学校学力向上推進委員会から出された「高等学校学力向上に関する提言」より引用

# 平成25年10月現在の暫定値をいれた指標等

平成25年10月11日  
教育総務課

## 1 データの出典

- 小学校・中学校：全国学力・学習状況調査等による。
- 高等学校：高等学校教育改革に関するアンケート、各校実施アンケート等による。
- H23年：全国学力・学習状況調査・高等学校教育改革に関するアンケートは実施されていない。

## 2 指標

### 【観点①：豊かに生きる、共に生きる力】

#### ◆自分自身や他者、社会等との関わりに関する意識

	対象	H21年度	H22年度	H24年度	H25年度	H25年 全国
「ボランティア活動に参加している」児童生徒の増加(小中高)	小6	H25年新規項目			44.5%	37.5%
	中3	H25年新規項目			52.8%	44.6%
	高2	H25年新規項目			年度未実施予定	
「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」児童生徒の増加(小中高)	小6	73.1%	71.6%	項目なし	76.3%	75.0%
	中3	57.7%	60.1%		65.9%	66.8%
	高2	実施なし	30.4%	40.4%	年度未実施予定	

#### ◆進路に向けた意識

「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の増加(小中高)	小6	84.7%	85.9%	84.8%	85.3%	87.7%
	中3	69.1%	68.9%	71.7%	70.9%	73.5%
	高2	H25年新規項目			年度未実施予定	
「[あの人のようになりたい]と思う人がいる」児童生徒の増加(小中)	小6	H25年新規項目			77.5%	75.6%
	中3	H25年新規項目			71.3%	69.0%
「自分の進路を実現するために、目標に向かって努力している」生徒の増加(高)	高2	実施なし	46.8%	55.8%	年度未実施予定	

#### ◆地域社会への参画状況

「地域の行事に参加している」児童生徒の増加(小中高)	小6	76.1%	76.1%	77.9%	79.1%	63.9%
	中3	43.7%	43.9%	44.6%	48.7%	41.6%
	高2	実施なし	23.7%	30.5%	年度未実施予定	
「地域の大人(学校や塾・習い事の先生を除く)から褒められたことがある」児童生徒の増加(小中)	小6	H25年新規項目			64.8%	70.8%
	中3	H25年新規項目			52.7%	54.8%

### 【観点②：学び方の質・学習状況】

#### ◆意欲、授業に向かう姿勢

「身に付けた知識・技能や経験を生活の中で活用できないか考える」児童生徒の増加(小中) ※算数・数学	小6	61.4%	63.9%	63.8%	65.1%	66.2%
	中3	29.4%	31.4%	33.8%	35.9%	37.7%
「授業の中で『わかった』、学んだことについて『もっと知りたい』と感じる」児童生徒の増加(小中)	小	少人数学級を活かす学びと指導の創造事業アンケート項目			12月実施予定	
	中	少人数学級を活かす学びと指導の創造事業アンケート項目			12月実施予定	
「学校の授業は、内容がわかりやすく、勉強することの充実感を感じる」生徒の増加(高)	高2	実施なし	47.6%	50.2%	年度未実施予定	
「調査結果を授業改善に活用している」学校の増加(小中)	小学校	97.2%	96.6%	61.4%	96.1%	92.1%
	中学校	90.8%	100.0%	42.9%	90.5%	88.7%
「児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりする発問や指導をする」学校の増加(小中)、教員の増加(高)	小学校	94.3%	92.0%	98.1%	95.3%	95.0%
	中学校	92.3%	97.1%	92.0%	92.0%	91.8%
	高校教員	実施なし	77.0%	80.5%	年度未実施予定	

◆ 体験活動・読書活動の実施状況	対象	H21年度	H22年度	H24年度	H25年度	H25年 全国
「授業で体験的な学習を取り入れている」学校の増加(小中)	小	少人数学級を活かす学びと指導の創造事業アンケート項目			12月実施予定	
	中				12月実施予定	
「全校一斉読書に取り組む」学校の増加(小中高)	小学校	100.0%	100.0%	98.1%	100.0%	98.2%
	中学校	95.4%	97.1%	100.0%	95.3%	92.7%
	高等学校	45.8%	87.5%	87.5%	91.6%	年度末発表予定
「読書が好きである」児童生徒の増加(小中高)	小6	74.9%	74.2%	75.1%	74.7%	72.1%
	中3	73.2%	73.5%	74.3%	73.0%	70.1%
	高2	H25年新規項目			年度末実施予定	

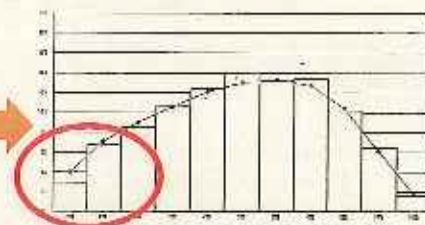
◆ 家庭における学習等の状況						
「家で、自分で計画を立てて勉強している」児童生徒の増加(小中高)	小6	55.1%	57.4%	57.2%	61.8%	58.9%
	中3	36.9%	41.3%	43.8%	46.2%	44.5%
	高2	実施なし	29.0%	36.0%	年度末実施予定	
「進んで取り組んでいることを褒めている」保護者の増加(小中)	小	少人数学級を活かす学びと指導の創造事業アンケート項目			12月実施予定	
	中				12月実施予定	
「生徒に対する国語・算数(数学)の指導として、保護者に対して家庭学習を促すような働きかけを行う」学校の増加(小中)	小学校	97.6%	92.1%	96.6%	98.5%	95.6%
	中学校	63.1%	46.1%	62.5%	62.0%	72.4%

【観点③: 学力調査】	H25年度	
◆ 上位層の増加、下位層の減少(小中)	小6	すべての教科のA層で全国平均を上回り、D層で全国平均を下回った。
	中3	
◆ 過去の調査と同一問題の正答率の増加(小中)	小6	過去の問題と同一問題の約8割(18問中14問)で、正答率が全国平均以上であった。また、過去の県との比較では、8問中5問で正答率が上昇した。
	中3	
◆ 無解答率の減少(特に「活用」に関する問題)(小中)	小6	記述式の約8割(18問中14問)の問題で、無回答率が全国平均以下であった。
	中3	
◆ 各校が設定した指標の達成(高)	高	H25年新規実施 年度末実施予定



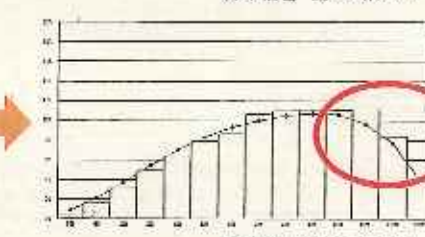
**【観点③】: 学力調査**  
**上位層の増加、下位層の減少**

【国語B】(小学校)



標準偏差 国26 県2.6

【算数B】(小学校)



標準偏差 国32 県3.1

2013/10/11

**【観点③】: 学力調査**  
**上位層の増加、下位層の減少**

		平成21年度		平成25年度	
		全国	県	全国	県
国語A	A層	33.1 >	32.9	30.9 <	31.9
	B層	24.4	26.3	20.1	22.1
	C層	18.9	18.8	25.9	25.3
	D層	23.6	22.0	23.1	20.7
国語B	A層	30.1	31.9	30.9	31.7
	B層	31.1	32.3	26.3	27.2
	C層	23.1	12.8	22.7	23.0
	D層	15.7 <	23.0	20.1 >	18.1

2013/10/11

## ○ 四分位の推移

平成25年度は、すべての教科のA層で全国平均を上回り、D層で全国平均を下回った。

### 【小学校】

		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成24年度		平成25年度	
		全国	県	全国	県	全国	県	全国	県	全国	県	全国	県
国語A	A層	28.6	34.2	28.6	30.0	33.1	32.9	25.7	27.9	35.6	37.8	30.9	31.9
	B層	34.4	18.9	27.8	21.5	24.4	26.3	37.9	24.5	16.8	16.2	20.1	22.1
	C層	19.9	26.9	23.4	26.3	18.9	18.8	18.1	25.6	22.9	24.1	25.9	25.3
	D層	17.1	20.0	20.2	22.3	23.6	22.0	18.2	22.0	24.6	22.0	23.1	20.7
国語B	A層	38.2	39.9	25.7	27.1	30.1	31.9	30.0	33.7	35.0	36.0	30.9	31.7
	B層	14.4	14.7	32.4	31.7	31.1	32.3	22.2	23.1	26.8	26.1	26.3	27.2
	C層	30.5	22.4	18.3	19.3	23.1	12.8	24.4	23.2	20.4	20.7	22.7	23.0
	D層	16.9	23.0	23.6	21.9	15.7	23.0	23.5	20.0	17.8	17.2	20.1	18.1
算数A	A層	38.0	39.8	26.9	27.5	30.2	34.9	34.3	35.6	27.1	35.3	37.2	38.6
	B層	14.2	16.3	32.9	24.9	25.7	26.4	21.7	23.7	24.6	24.4	12.6	12.9
	C層	26.0	21.4	15.6	25.1	24.3	17.6	21.6	16.4	25.9	17.8	26.4	26.8
	D層	21.7	22.5	24.6	22.6	19.8	21.1	22.5	24.4	22.4	22.6	23.7	21.7
算数B	A層	33.8	35.0	30.1	30.3	33.6	34.6	30.1	31.0	32.4	26.5	32.0	34.4
	B層	24.1	25.9	23.8	24.8	22.1	22.7	24.7	28.0	23.3	26.3	21.2	22.1
	C層	20.1	20.1	21.5	22.0	25.6	25.3	24.6	24.1	19.7	29.6	19.3	19.1
	D層	21.9	19.0	24.5	22.9	18.8	17.4	20.5	16.8	24.7	17.6	27.4	24.4

### 【中学校】

		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成24年度		平成25年度	
		全国	県	全国	県	全国	県	全国	県	全国	県	全国	県
国語A	A層	32.2	28.9	32.1	25.3	30.4	33.5	32.4	25.1	32.5	30.1	26.2	26.6
	B層	20.9	22.7	24.1	25.7	25.4	19.6	22.7	31.3	18.1	27.0	26.1	27.7
	C層	25.8	27.3	22.6	25.5	20.0	22.7	23.4	20.4	25.7	19.0	23.3	23.6
	D層	21.1	21.2	21.2	23.5	24.2	24.1	21.5	23.2	23.7	23.9	24.7	22.1
国語B	A層	38.5	37.3	35.6	34.4	42.0	43.9	42.9	43.0	41.9	43.2	32.3	32.8
	B層	17.6	18.6	14.5	27.6	16.0	15.9	16.4	17.8	21.8	21.0	18.2	19.2
	C層	22.4	22.3	32.6	21.4	20.1	19.6	22.3	22.4	14.4	15.7	25.6	26.0
	D層	21.5	21.8	17.2	16.6	21.9	20.5	18.5	16.8	21.9	20.0	23.8	22.0
数学A	A層	30.1	31.0	26.2	27.2	29.5	25.6	29.3	28.0	29.2	29.9	24.4	25.7
	B層	21.1	21.1	26.8	25.9	21.1	25.9	23.8	24.6	21.8	21.9	25.5	25.5
	C層	24.9	24.2	24.1	22.1	26.5	25.9	24.4	23.1	26.2	25.5	25.9	25.9
	D層	23.9	23.8	22.8	24.8	22.9	22.6	22.6	24.2	22.8	22.8	23.7	22.9
数学B	A層	30.5	30.5	25.4	26.1	29.2	29.6	25.5	30.7	28.2	33.3	27.1	28.6
	B層	23.4	23.7	25.6	26.5	24.1	24.7	30.8	25.3	24.1	16.8	21.5	21.7
	C層	25.3	24.8	31.9	23.8	21.8	21.5	22.7	24.0	23.6	31.6	24.5	26.0
	D層	20.7	21.1	17.6	23.6	24.9	24.2	21.1	20.0	24.1	18.3	27.0	23.7

## ○ 過去の調査と同一問題の正答率の比較

平成25年度は、過去の問題と同一問題の約8割(13問中14問)で、正答率が全国平均以上であった。また、過去の県の結果との比較では、8問中6問で正答率が上昇した。

は県の過去のデータがない問題  
 は全国平均以上

### 【小学校】 (国語)

問題の内容	正答率		過去の調査の正答率		
	県	全国(公立)	県	全国(公立)	実施年度・対象学年
漢字を読む(券)	98.9%	98.9%			
〃 (子孫)	77.7%	79.2%			
〃 (採集)	80.9%	64.9%	76.7%	80.0%	平成21年度・小6
漢字を書く(焼く)	71.4%	72.4%	79.3%	70.7%	平成19年度・小6
〃 (停車)	48.0%	46.9%			
〃 (設ける)	59.7%	53.5%			
接続語を使って1文を2文に分けて書く	19.7%	23.4%	13.9%	14.7%	平成21年度・小6

### (算数)

問題の内容	正答率		過去の調査の正答率		
	県	全国(公立)	県	全国(公立)	実施年度・対象学年
243-65を計算する	88.3%	88.2%	87.1%	86.9%	平成22年度・小6
9.3×0.8を計算する	87.5%	83.7%	87.7%	84.3%	平成19年度・小6
6÷5を計算する	88.3%	88.3%	87.9%	84.7%	平成22年度・小6
2/9×4を計算する	92.5%	89.5%			

### 【中学校】 (国語)

問題の内容	正答率		過去の調査の正答率		
	県	全国(公立)	県	全国(公立)	実施年度・対象学年
漢字を書く(希望)	87.6%	87.5%			
漢字を読む(異論)	94.2%	93.2%			
適切な語句を選択する(友達に将来の抱負を話す)	61.2%	62.7%			
適切な語句を選択する(直前になって、二の足を踏む)	85.0%	84.8%			

### (数学)

問題の内容	正答率		過去の調査の正答率		
	県	全国(公立)	県	全国(公立)	実施年度・対象学年
縦a、横bの長方形において、2(a+b)が表す量を選ぶ	69.7%	66.9%	64.0%	62.6%	平成19年度・中3
平行線の間の三角形について、内角x、yの和の値を選ぶ	80.5%	78.8%			
一次関数の事象を式で表す	54.6%	54.3%	59.2%	55.6%	平成21年度・中3

※各調査の対象学年や実施時期、問題の全体構成等が異なるため、単純な比較ができないことに留意する必要がある

## ○ 記述式の問題の無解答率の比較

平成25年度は、記述式の約8割(18問中14問)の問題で、無回答率が全国平均以下であった。

■ は全国平均以下

【小学校】  
(国語A)

番号	設問の概要	鳥取県		全国	
		正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
4ウ	「言葉の使い方」に関する資料を読み取り、全体から分かることを書く	41.5	21.2	44.9	20.3

(国語B)

番号	設問の概要	鳥取県		全国	
		正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
1三	川本さんの助言についての説明を書く	69.3	8.1	67.2	9.7
2三	複数の内容を関係付けた上で、自分の考えを具体的に書く	17.8	17.4	17.8	20.4

(算数A)

該当なし

(算数B)

番号	設問の概要	鳥取県		全国	
		正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
1(2)	三つの乗り物券の買い方を比較して、どの買い方が一番安いかを選択し、そのわけを書く	54.3	0.8	50.8	0.9
2(3)	示された実験の結果から、ふりこの長さ10往復する時間が比例の関係になっていないことを表の数値を基に書く	37.7	15.5	35.2	19.0
3(2)	示された分け方が元の長方形を4等分していることの説明として、二つの三角形の面積が等しいことを書く	46.0	12.7	42.7	15.6
4(1)	ワールドカップ後の1試合当たりの観客数がワールドカップ前の1試合当たりの観客数の約何倍になるのかを求める方法と答えを書く	45.1	10.5	43.1	11.4
5(2)	帯グラフに示された割合と基準量の変化を読み取り、インターネットの貸出冊数の増減を判断し、そのわけを書く	47.6	7.8	44.4	7.8

【中学校】

(国語A)

該当なし

(国語B)

番号	設問の概要	鳥取県		全国	
		正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
1三	「かるた」について分かったことを基に、さらに調べたいことと調べる方法を具体的に書く	60.1	2.4	57.9	2.8
2三	文章を読んで感じたことや考えたことを具体的に書く	63.4	10.8	65.7	11.3
3三	間違えやすい漢字を学習する際の注意点やコツを、漢字の特徴を取り上げて説明する	65.7	5.1	64.6	5.4

(数学A)

該当なし

(数学B)

番号	設問の概要	鳥取県		全国	
		正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
1(3)	安静時心拍数が年齢によらず一定であるとするときの目標心拍数の変わり方を選び、その理由を説明する	24.2	3.5	23.7	4.5
2(1)	2けたの自然数と、その数の十の位の数と一の位の数を入れかえた数の差が9の倍数になる説明を完成する	36.4	24.9	37.3	23.1
2(2)	2けたの自然数と、その数の十の位の数と一の位の数を入れかえた数の和について予想した事柄を表現する	36.8	36.1	38.0	34.9
3(2)	与えられた表やグラフを用いて、水温が80℃になるまでにかかる時間を求める方法を説明する	33.0	36.0	31.7	34.1
4(1)	2つの辺の長さが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する	32.2	23.2	32.4	23.3
5(2)	まとめ直したヒストグラムの特徴を基に、学級の生徒が美しいと思う長方形について新たにわかることを説明する	26.0	42.5	24.8	43.1
6(3)	基石全部の個数を、 $3(n-2)+3$ という式で求められることができる理由を説明する	25.8	41.7	24.1	43.2